

令和 2 年度 北海道地区会議事業報告

事業名	時期	場所	事業内容
地区会議運営協議会の開催	令和 2 年 5 月 27 日 (水)	ウェブ開催	議題 (1) 令和 2 年度日本学術会議北海道地区会議学術講演会について 報告 (1) 日本学術会議サイエンスカフェの実施について
	9 月 11 日 (金)	文書開催	議題 (1) 日本学術会議北海道地区会議学術講演会「感染症との共存の現在と未来（仮題）」の開催について
	10 月 2 日 (金)	日本学術会議 (東京都)	議題 (1) 代表幹事について (2) 運営協議会委員について (3) 今年度の活動について
	11 月 7 日 (土)	北海道大学 (札幌市)	議題 (1) 日本学術会議北海道地区会議運営協議会委員について (2) 本年度の事業スケジュールについて
	令和 3 年 3 月 8 日 (月)	文書開催	議題 (1) 令和 3 年度事業計画について 報告 (1) 令和 2 年度事業実施報告について
学術講演会の開催	令和 2 年 11 月 7 日 (土)	北海道大学 (オンライン配信)	テーマ 「感染症との共存の現在と未来」 詳細は別紙のとおり (参加者 86 名)

事業名	時期	場所	事業内容
サイエンスカフェの開催	令和3年 1月29日 (金)	北海道大学 (オンライン 配信)	題目 「色から始まる変化のいろは～ ソフトクリスタルにみる化学の 新潮流～」
地区会議ニュースの発行	令和3年 3月		No.51 を発行し、北海道地区の 日本学術会議会員・連携会員及 び教育研究機関等へ配付

WEB
開催

『感染症との共存の現在と未来』

COVID-19の世界的な拡大により、経済活動、生活様式、教育の在り方など、様々な面で大きな変革が求められています。一方、COVID-19への対応の裏で、他の多くの感染症問題が後回しにされていることに、多くの専門家が警鐘を鳴らしています。

現在、どのような感染症が問題となっており、またCOVID-19との共存に向けてどのようなパラダイムシフトが起こっているのか、専門家を交え情報の共有を行うとともに、これからの社会について考えます。

令和2年 **11月7日** 土
13:30~17:00

事前参加申込制・オンラインでの開催

参加費無料

どなたでも参加頂けます

● 講演:

「北海道の風土病・エキノコックス症への取り組み」

山野 公明 (北海道立衛生研究所感染症センター感染症部 部長)

「深刻化する国内の豚熱(CSF)と差し迫るアフリカ豚熱(ASF)の脅威」

迫田 義博 (北海道大学獣医学研究院 教授)

「コロナウイルス感染症」

神谷 亘 (群馬大学医学部 教授)

「生態系の中に存在する病原体と人間」

荻和 宏明 (北海道大学獣医学研究院 教授、人と動物の共通感染症研究会 会長)

● 座長: 吉岡 充弘 (日本学術会議第二部会員・北海道地区会議代表幹事、北海道大学大学院医学研究院長)

● 司会進行: 石塚真由美 (日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授)

○ 申込方法

参加を希望される方は、11月5日(木)までに下記URL又は右のコードより申込みをお願いします。

URL ▶ <https://hokudai.webex.com/hokudai/onstage/g.php?MTID=e0835a57c4b43b93235dc99493d53db91>



○ お問い合わせ先

日本学術会議 北海道地区会議事務局 (北海道大学 研究推進部 研究振興企画課内)

Tel: 011-706-2155・2166 Fax: 011-706-4873

E-mail: kaigi*research.hokudai.ac.jp

(上記mailアドレスの*マークを@に変えてお送りください。)

※ 新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更等の措置をとる場合があります。

令和2年度 東北地区会議事業報告

事業名	時期	場所	事業内容
○第24期 第一回東北地区会議 運営協議会	令和2年 5月20日(水) 10:00～11:00	オンライン 開催	令和2年度科学者との懇談会及び公開学術講演会の開催に係る審議 ※「新型コロナウイルス感染症」拡大の状況を踏まえ、開催の有無等を審議した。
○公開学術講演会	令和2年 9月26日(土) 13:00～16:20	オンライン 開催	<p>【テーマ】 人生100年時代の雇用問題</p> <p>【講演者】</p> <p>1. 白波瀬 佐和子 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授)</p> <p>2. 太郎丸 博 (京都大学大学院文学研究科教授)</p> <p>3. 高橋 満 (東北大学名誉教授、仙台白百合女子大学グローバル・スタディーズ学科特任教授)</p> <p>4. 佐藤 嘉倫 (東北地区会議会員、東北大学大学院文学研究科教授、京都先端科学大学人文学部学部長・教授)</p> <p>◇参加者 約100名</p>
○第25期 第二回東北地区会議 運営協議会	令和3年 2月15日(月) 11:00～12:00	オンライン 開催	令和2年度事業報告及び 令和3年度事業計画の審議
○地区会議ニュース の発行(No. 35)	令和3年 3月(予定)		掲載内容(予定) 運営協議会新任委員挨拶 公開学術講演会開催報告他

令和2年度 日本学術会議東北地区会議主催 公開学術講演会 人生100年時代の雇用問題

学校を卒業すると同時に正社員として就職し、定年まで同じ会社に勤めあげて、定年後は退職金と安定した年金でゆとりある生活を送るという日本型雇用慣行は弱体化しています。年金の支払開始時期も遅くなっています。卒業と同時に就職できない人々、正社員にならない人々、キャリアの途中で転職する人々、定年後も再雇用で働く人々が増えています。この雇用の不安定化のため、非正規雇用者の増大、中高年フリーターの増大、結婚できない人々の増大、老後貧乏の問題など、さまざまな社会問題が生じています。本講演会では、このような社会の変化と社会問題の発生を背景として、現代日本の雇用問題の実態と解決策について議論を深めていきます。

令和2年 9月26日 土 13:00~16:20

WEB開催（参加無料）

次第

開会挨拶

渡辺 美代子（日本学術会議 副会長、
国立研究開発法人科学技術振興機構 副理事）
厨川 常元（日本学術会議東北地区会議 代表幹事、
東北大学大学院医学工学研究科 教授）

講演

- ① 白波瀬 佐和子（日本学術会議 連携会員、
東京大学大学院人文社会系研究科 教授）
人生100年時代の高齢就労：
格差拡大か縮小か
- ② 太郎丸 博（京都大学大学院文学研究科 教授）
日本型雇用システムの変容と若者の
キャリア・結婚
- ③ 高橋 満（東北大学 名誉教授、
仙台白百合女子大学グローバル・スタディーズ学科 特任教授）
リカレント教育の可能性と限界
- ④ 佐藤 嘉倫（日本学術会議東北地区会議 会員、
東北大学大学院文学研究科 教授、
京都先端科学大学人文学部 学部長・教授）
雇用問題とソーシャル・キャピタル（仮題）

質疑応答

閉会挨拶

佐藤 嘉倫（日本学術会議東北地区会議 会員、
東北大学大学院文学研究科 教授、
京都先端科学大学人文学部 学部長・教授）

司会進行

佐藤 嘉倫（日本学術会議東北地区会議 会員、
東北大学大学院文学研究科 教授、
京都先端科学大学人文学部 学部長・教授）



参加申込方法

参加を希望される方は、9/18(金)までに下記URLまたは右のQRコードより事前申込をお願いします。
定員になり次第、事前申込みの受付は終了します。

URL: <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kenkyo/gakujyutsukaigi/R2form.html>



お問合せ先

東北大学研究推進課

TEL:022-217-4840

E-mail: kenkyo@grp.tohoku.ac.jp

主催：日本学術会議東北地区会議

共催：東北大学

後援：宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城教育大学、宮城大学、石巻専修大学、尚絅学院大学、仙台大学、仙台白百合女子大学、東北学院大学、東北工業大学、東北生活文化大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、宮城学院女子大学、放送大学宮城学習センター、仙台高等専門学校、河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、日本経済新聞社仙台支局、産経新聞社東北総局、共同通信社仙台支社、時事通信社仙台支社、日刊工業新聞社東北・北海道総局、NHK仙台放送局、仙台放送、ミヤギテレビ、TBC東北放送、KHB東日本放送、エフエム仙台

令和2年度 中部地区会議事業実施報告書

事業名	期日・場所	内 容	出席者数
中部地区会議 (科学者懇談会 各県幹事との 打合せ会)	令和元年 5月25日(月) (メール審議)	1 次回以降の地区会議の開催について 2 中部地区会議運営協議会について 3 地区会議ニュースについて 4 令和元年度中部地区会議事業実施報告について 5 科学者懇談会新会員の加入及び県幹事の交替について 6 令和元年度科学者懇談会収支について	25名
学術講演会		新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止(延期)	
中部地区会議 (科学者懇談会 各県幹事との 打合せ会)	令和元年 11月20日(金) (web会議)	1 中部地区会議運営協議会について 2 地区会議代表幹事の報告 3 学術講演会について 4 地区会議ニュースについて 5 令和3年度中部地区会議事業実施計画について 6 次回地区会議の開催について	34名
学術講演会	(Zoom ウェビナー)	1 開会挨拶 2 科学者との懇談会活動報告 3 講演 『コロナ禍・豪雨災害：自然災害に向き合う』 ○コロナ禍：感染症と自然災害 杉山 誠(岐阜大学・副学長) ○コロナ禍：防災減災と被災 小山 真紀(岐阜大学・流域圏科学研究センター准教授) ○コロナ禍：親密圏における暴力(DV・児童虐待など) 立石 直子(岐阜大学・地域科学部准教授)	34名
学術講演会		1 開会挨拶 2 科学者との懇談会活動報告 3 講演 『コロナ禍・豪雨災害：自然災害に向き合う』 ○コロナ禍：感染症と自然災害 杉山 誠(岐阜大学・副学長) ○コロナ禍：防災減災と被災 小山 真紀(岐阜大学・流域圏科学研究センター准教授) ○コロナ禍：親密圏における暴力(DV・児童虐待など) 立石 直子(岐阜大学・地域科学部准教授)	178名
地区会議ニュースの発行 (No. 149)	令和3年 3月	発行部数 525部	

コロナ禍・豪雨災害：自然災害 に向き合う

新型コロナウイルスの流行は、私たちの生活を一変させました。この新型コロナウイルスの起源については議論があるものの、自然界の生態系から人類に入ってきたウイルスであることは間違いありません。その意味からは、コロナ禍も自然現象であり、自然災害の一つと捉えることができます。一方、コロナ禍が続くなか、岐阜県含め各地では、深刻な豪雨災害が起き、これまでとは異なる対応が求められています。このように複雑化した自然災害とどう向き合うかは身近で喫緊のテーマです。そこで、本講演会では、こうした自然災害との向き合い方について、コロナ禍や豪雨災害を例に、自然科学、社会科学、行動科学の観点から考えてみたいと思います。

オンライン開催

Zoomウェビナー

募集人員 500人(先着順)

申込方法 メールでのお申込み

kokuken@gifu-u.ac.jp

【件名】11/20学術講演会申込み

【本文】氏名・連絡先

(メールアドレスと電話番号)

返信にてZoomウェビナー参加のURLをお送りします。

申込締切 令和2年11月13日(金)

令和2年 **11**月**20**日 **金** 13:00▶16:00

PROGRAM

13:00 開会挨拶

13:10 森脇 久隆 (岐阜大学・学長)

13:10

13:20 日本学術会議挨拶

13:20 主催者挨拶

13:30 池田 素子 (日本学術会議中部地区会議代表幹事、日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科・教授)

13:30 科学者との懇談会活動報告

13:40 松田 正久 (中部地区科学者懇談会幹事長)

13:40 学術講演会

15:55 「コロナ禍：感染症と自然災害」

杉山 誠 (日本学術会議連携会員、岐阜大学・副学長)

「コロナ禍：防災減災と被災」

小山 真紀 (岐阜大学・流域圏科学研究センター・准教授)

「コロナ禍：親密圏における暴力(DV・児童虐待など)」

立石 直子 (日本学術会議連携会員、岐阜大学・地域科学部・准教授)

15:55 閉会挨拶(司会)

16:00 永田 知里 (日本学術会議連携会員、岐阜大学・医学系研究科・教授)

※下線の講演者等は、主催地区会議の会員・連携会員

令和2年度 近畿地区会議事業報告

■日本学術会議近畿地区会議学術講演会

テーマ：「未来の語り口：人間は神になれるか」 (Web開催)

日時：令和2年9月22日(火・祝) 13:00～17:00

主催：日本学術会議近畿地区会議、京都産業大学

後援：公益財団法人 日本学術協力財団

参加者数：263名

<プログラム>

開会挨拶：伊藤 公雄 (日本学術会議第一部会員・近畿地区会議代表幹事・京都産業大学現代社会学部教授)

会長挨拶：山極 壽一 (日本学術会議会長・第二部会員・京都大学総長)

趣旨説明：小林 傳司 (日本学術会議第一部会員・大阪大学名誉教授)

講演1：「フューチャー・デザイン — 持続可能な未来に向けて」

原 圭史郎 (日本学術会議特任連携会員・大阪大学大学院工学研究科教授)

講演2：「Society 5.0が描く未来」

東野 輝夫 (日本学術会議第三部会員・大阪大学大学院情報科学研究科教授)

講演3：「セキュリティが支える未来のデジタル社会」

宮地 充子 (日本学術会議第三部会員・大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻教授)

講演4：「AIを活用した社会構想と政策提言」

広井 良典 (京都大学こころの未来研究センター教授)

講演5：「コロナ禍で加速するデジタル化と未来社会の構想 — ポスト・ヒューマンの時代とは」

遠藤 薫 (日本学術会議第一部会員・学習院大学法学部教授)

講演6：「食とリスクの視点からみた未来」

新山 陽子 (日本学術会議連携会員・立命館大学食マネジメント学部教授)

講演7：「人類は宇宙へ進出できるのか — 宇宙倫理学からの視点」

伊勢田 哲治 (京都大学大学院文学研究科准教授)

全体総括：コーディネータ 小林 傳司 (日本学術会議第一部会員・大阪大学名誉教授)

閉会挨拶：小山田 耕二 (日本学術会議第三部会員・京都大学学術情報メディアセンター教授)

総司会：高山 佳奈子 (日本学術会議第一部会員・京都大学大学院法学研究科教授)

■日本学術会議近畿地区会議運営協議会・学術文化懇談会

日時：令和3年3月8日(月)開催

議題：令和2年度事業報告について

令和3年度事業計画について

令和3年度近畿地区会議学術講演会について 他

■地区会議ニュースの発行 (No. 30)

令和2年3月

発行部数 1,000部

Web
開催

未来の語り口..

人間は神になれるか

AI・IoTの発達による（狩猟社会、農耕社会、産業社会、

情報社会に続く）Society5.0と呼ばれる現代、人間の能力は神をも超えようとしているかに思われる。他方で、人口（過剰・収縮）問題、環境問題はじめ人間をとりまくさまざまなリスク問題が、地球規模の課題として浮上りつつあるのも事実である。

今回の学術講演会では、こうした新たな技術の発展のなかで、私たちがいかなる未来を構想しうるのかをめぐって議論を深めたいと考える。特に、未来の主人公たる高校生や大学生にも広く参加を呼びかけてみようと考えている。

2020

9/22（火・祝） 13:00~17:00

参加費無料

事前参加申込制

どなたでも参加いただけます。

参加申込方法

参加を希望される方は、9/17(木)までに下記URLまたは右のコードより事前申込をお願いいたします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了します。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0123.html>



開会挨拶 日本学術会議第一部会員・近畿地区会議代表幹事・京都産業大学現代社会学部教授

日本学術会議会長挨拶 日本学術会議会長・第二部会員・京都大学総長

趣旨説明 日本学術会議第一部会員・大阪大学名誉教授

講演

講演1 「フューチャー・デザイン — 持続可能な未来に向けて」

日本学術会議特任連携会員・大阪大学大学院工学研究科教授

講演2 「Society 5.0が描く未来」

日本学術会議第三部会員・大阪大学大学院情報科学研究科教授

講演3 「セキュリティが支える未来のデジタル社会」

日本学術会議第三部会員・大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻教授

講演4 「AIを活用した社会構想と政策提言」 京都大学こころの未来研究センター教授

講演5 「コロナ禍で加速するデジタル化と未来社会の構想

— ポスト・ヒューマンの時代とは」 日本学術会議第一部会員・学習院大学法学部教授

講演6 「食とリスクの視点からみた未来」

日本学術会議連携会員・立命館大学食マネジメント学部教授

講演7 「人類は宇宙へ進出できるのか — 宇宙倫理学からの視点」

京都大学大学院文学研究科准教授

全体総括 コーディネーター:

閉会挨拶 日本学術会議第三部会員・京都大学学術情報メディアセンター教授

総司会 日本学術会議第一部会員・京都大学大学院法学研究科教授

伊藤 公雄

山極 壽一

小林 傳司

原 圭史郎

東野 輝夫

宮地 充子

広井 良典

遠藤 薫

新山 陽子

伊勢田哲治

小林 傳司

小山田耕二

高山佳奈子

主催 | 日本学術会議近畿地区会議、京都産業大学

後援 | 公益財団法人 日本学術協力財団

お問合せ先 | 日本学術会議近畿地区会議事務局(京都産業大学内) TEL 075-705-2953 FAX 075-705-1960 Email: gakujuitsu-kinki@star.kyoto-su.ac.jp

新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更の措置を検討するものとする。

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

令和2年度 中国・四国地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
・第1回地区会議 運営協議会及び 学術講演会	令和2年11 月21日	オンライン開 催（学術講演 会は愛媛大学 城北キャンパ スを会場とし てオンライン 開催）	<p><u>運営協議会：</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和2年度公開学術講演会について 2) 令和3年度公開学術講演会について 3) 令和2年度地区ニュース（No.52）について 4) 地区会議の動向（「学術の動向」）について 5) その他 <p><u>学術講演会：</u></p> <p>テーマ「地域にある大学としての先端学術の振興と地域産業イノベーションへの貢献」</p> <p>開会挨拶（以下敬称略）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 菱田 公一（日本学術会議副会長） 2) 大橋 裕一（愛媛大学長） <p>講演：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「愛媛大学における先端学術研究の展開とリサーチユニット」宇野 英満（愛媛大学理事・副学長、先端研究・学術推進機構長） 2) 「愛媛発イノベーションによるマラリアワクチン開発への貢献」坪井 敬文（愛媛大学プロテオサイエンスセンター長） 3) 「地域にある大学による「地方創生」への貢献」仁科 弘重（日本学術会議第二部会員、愛媛大学理事・副学長、社会

<p>・ 地区会議ニュースの発行 (No. 52)</p>	<p>2021年3月</p>		<p>連携推進機構長)</p> <p>4) 「スマの育種完全養殖が切り拓く未来」後藤 理恵 (愛媛大学南予水産研究センター准教授)</p> <p>5) 「医療検査・診断用ペーパーデバイスの開発」内村 浩美 (愛媛大学紙産業イノベーションセンター長、特別栄誉教授)</p> <p>6) 「高精度生体情報計測が可能にする Society5.0 の農業生産」高山 弘太郎 (日本学術会議第二部会員、愛媛大学農学研究科植物工場システム学コース教授)</p> <p>閉会挨拶： 相田 美砂子 (日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事)</p> <p>中国・四国地区の日本学術会議会員・連携会員及び教育研究機関等へ配布</p>
<p>・ 第2回地区会議運営協議会</p> <p>・ 「地区会議の動向」(学術の動向)への掲載</p>	<p>2021年3月11日</p>	<p>オンライン開催</p>	<p><u>運営協議会：</u></p> <p>1) 令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画について</p> <p>2) 令和3年度公開学術講演会について</p> <p>3) 地区会議の動向 (「学術の動向」) について</p> <p>1) 令和2年度公開学術講演会報告 ※令和3年4月号掲載</p>

日本学術会議

中国・四国地区会議主催 学術講演会

地域にある大学としての 先端学術の振興と地域産業 イノベーションへの貢献

2020年11月21日(土)

○ 会場参加：定員50名
愛媛大学 城北キャンパス
グリーンホール（松山市文教町）

○ オンライン参加

会場参加・オンライン参加ともに
事前申込み（下部URL）が必要です

全国の86国立大学の中で、主に地方にある55大学は、文部科学省の重点支援枠①（主として、人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組とともに、（中略）強み・特色のある分野で世界ないし全国的な教育研究を推進する）を選択し、主に「地域貢献型」の大学としてさまざまな取組を行っている。しかし、世界的な先端研究を展開している研究グループも存在し、それらのグループの「キラリと光る」世界的成果は、大学の本来の姿として不可欠なものである。

本講演会では、地方大学の一つとしての愛媛大学が、「先端研究」と「地域創生に繋がる応用研究」をどのように展開しているかを共有したい。また、今後の大学運営との関係で、これらの方向性が異なる研究をどのように発展させていくべきなのか、考えたい。

13:30～ 開会挨拶

日本学術会議副会長 菱田公一（明治大学研究・知財戦略機構：オンライン）
愛媛大学長 大橋裕一

13:50～ 愛媛大学における先端学術研究の展開とリサーチユニット

宇野英満（愛媛大学理事・副学長・先端研究・学術推進機構長）

14:15～ 愛媛発イノベーションによるマラリアワクチン開発への貢献

坪井敬文（愛媛大学プロテオサイエンスセンター長）

14:50～ 地域にある大学による「地方創生」への貢献

仁科弘重（日本学術会議第二部会員、愛媛大学理事・副学長・社会連携推進機構長）

15:10～ 休憩

15:25～ スマの育種完全養殖が切り拓く未来

後藤理恵（愛媛大学南予水産研究センター准教授）

15:55～ 医療検査・診断用ペーパーデバイスの開発

内村浩美（愛媛大学紙産業イノベーションセンター長・特別荣誉教授）

16:25～ 高精度生体情報計測が可能にするSociety5.0の農業生産

高山弘太郎（日本学術会議第二部会員、愛媛大学農学研究科植物工場システム学コース教授）

16:55～ 閉会挨拶

日本学術会議第三部会員・中国・四国地区会議運営協議会代表幹事
相田美砂子（広島大学：オンライン）



申込み先QRコード

申込み先：<https://receipt.agr.ehime-u.ac.jp/~scj2020/mpmailec/form.cgi>

問い合わせ先：愛媛大学社会連携課総務・企画チーム（renkei@stu.ehime-u.ac.jp）

令和2年度 九州・沖縄地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
運営協議会の開催	令和2年6月	書面回議	議題 令和2年度上半期の科学者懇談会及び学術講演会の実施延期について
	令和3年3月	書面回議	議題 (1) 令和2年度事業報告(案)について (2) 令和3年度事業計画(案)について 報告 (1) 地方学術会議委員の決定について (2) 令和2年度下期の科学者懇談会及び学術講演会の延期について
公開シンポジウム(学術講演会)の開催	令和2年8月6日(木)	WEB開催	日本学術会議第三部との共催にて学術講演会を開催した。 ◇テーマ 健康で長生き—未来社会を開くヘルステック・イノベーション ◇演題・講演者 ・『ナノメディシンが拓くヘルスイノベーション』 片岡 一則(公益財団法人川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター センター長) ・『ナノの力で光を操るバイオイメージング』 玉田 薫(九州大学先端物質化学研究所 主幹教授) ・『化学プローブを精密にデザインして癌を光らせる!』 神谷 真子(東京大学大学院)

			<p>医学系研究科 准教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> 『人間のテクノロジーに対する適応能力からみたヘルステックイノベーションのあるべき姿』 <p>村木 里志 (九州大学大学院 芸術工学研究院 教授)</p> <p>【総合討論】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『科学技術と社会、倫理：ポストコロナ時代を乗り越えるヘルステックの迅速な社会実装に向けた「共創」について考える』 <p>話題提供：『社会の中の科学・社会のための科学』</p> <p>小林 傳司 (大阪大学 名誉教授)</p> <p>コメンテーター： 片岡 一則、玉田 薫、 神谷 真子、村木 里志</p> <p>◇参加者 300名</p>
「科学者懇談会」及び「学術講演会」の開催	令和2年9月28日 (月)		大分大学との共催で開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により延期
	令和3年3月10日 (水)		九州大学において、地方学術会議と共催で開催予定だったが、地方学術会議が来年度に延期されたため、それに伴って延期
日本学術会議九州・沖縄地区ニュースの発行	令和3年3月		No.119号を、デザイン、配布形式を見直して発行

参加
無料

Web
開催

公開シンポジウム

健康で長生き

ー未来社会を開くヘルステック・イノベーションー

日本学術会議第三部会、九州・沖縄地区会議、国立大学法人九州大学 共同主催

令和2年 **8.6** (木) 13:00 - 17:40

来るべき高齢社会に、我々が健康に暮らすための新しい技術を生み出す「ヘルステック」は最も期待の高い技術分野である。現在のヘルステックは、データ解析、診断解析などIT技術が中心となっている。今般のコロナ対応の中でも、これら新技術の活用は世界各国で行われたが、個々人の権利への干渉や社会生活にも変容をもたらしかねない問題もはらんでいる。そのような中で、今後、新しい健康情報の取得技術、ヘルステック技術から解明される健康情報をもとに、健康な生活を維持できるための、人に優しい新しい技術が必要とされる。これからの社会を担う新しい価値の創造には、倫理面や幸福論まで踏まえた新しいヘルステック分野の創出が必要であろう。今後、真のイノベーションを生み出していくためには、産業界と学術界がより密接に連携できるような新しい基礎研究の方法論が必要となる。そこで、本シンポジウムでは、独自の研究成果を生み出している研究者や高齢社会を踏まえた価値創出に携わる研究者の講演を通して、これからのヘルステック研究は、何を生み出し、どうあるべきか、真の価値を生み出せる研究のあるべき姿を議論したい。

13:00 主催者挨拶

開会挨拶

久保 千春

九州大学総長

日本学術会議第三部会 部長挨拶

大野 英男

日本学術会議第三部会 部長、東北大学総長

世話人挨拶

谷口 倫一郎

日本学術会議第三部会 九州・沖縄地区会議副代表幹事、九州大学大学院システム情報科学研究科教授

16:20 総合討論

科学技術と社会、倫理：ポストコロナ時代を乗り越えるヘルステックの迅速な社会実装に向けた「共創」について考える

司会

君塚 信夫

日本学術会議第三部会 九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学大学院工学研究院主幹教授

話題提供 「社会の中の科学・社会のための科学」

小林 傳司

日本学術会議第一部会 大阪大学名誉教授

コメンテーター

片岡 一則

玉田 薫

神谷 真子

村木 里志

小林 傳司

13:20

基調講演 「ナノメディシンが拓くヘルスイノベーション」

片岡 一則

日本学術会議第三部会 公益財団法人川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンターセンター長

14:10

講演 「ナノの力で光を操るバイオイメージング」

玉田 薫

日本学術会議連携会員 九州・沖縄地区会議 九州大学先端物質化学研究所主幹教授、副理事

14:50

休憩

15:10

15:10

講演 「化学プローブを精密にデザインして癌を光らせる！」

神谷 真子

東京大学大学院医学系研究科准教授

15:40

講演 「人間のテクノロジーに対する適応能力からみたヘルステックイノベーションのあるべき姿」

村木 里志

九州大学大学院芸術工学研究院教授

16:10

休憩

16:20

17:30 閉会挨拶

山極 壽一

日本学術会議第二部会 会長、京都大学総長

17:40 閉会

参加申込方法

参加を希望される方は、7/31(金)までに下記URLまたは右のコードより事前申込をお願いします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了します。

<https://bit.ly/2Y0hEJi>

後援：福岡県、福岡市、公益社団法人 高分子学会、公益社団法人 日本化学会九州支部、日本DDS学会、日本バイオマテリアル学会、公益財団法人 日本学術協力財団

お問合せ：九州大学 研究・産学官連携推進部 研究企画課 研究総務係

電話番号：092-802-2193

メールアドレス：kissomu[α]jimu.kyushu-u.ac.jp

